

国際交流基金助成プログラム

2017.12.14

「第6回宮本賞(学生懸賞論文)」(日本日中関係学会主催)

応募 54 人、受賞者が決まる

「学部生の部」:最優秀賞に浦道雄大さん(横浜国立大)、優秀賞 4 本、特別賞 4 本

「大学院生の部」:最優秀賞は該当論文なし、優秀賞 3 本、特別賞 4 本

日本日中関係学会(会長:宮本雄二・元中国大使)が主催して「第6回宮本賞(日中学生懸賞論文)」を募集(2017年6月から募集開始)したところ、「学部生の部」で32本、「大学院生の部」で22本、合計54本の応募がありました。

2017年12月13日(水)に宮本雄二審査委員長など審査委員が集まり、厳正な審査を行った結果、「学部生の部」の最優秀賞に浦道雄大さん(横浜国立大学)の「日中経済とシェアリングエコノミー」が選ばれました。また優秀賞4本、特別賞4本もそれぞれ選ばれました。一方「大学院生の部」では残念ながら最優秀賞の該当論文はありませんでしたが、優秀賞3本、特別賞4本がそれぞれ選ばれました。

中国の大学から応募して受賞した上位4人の中国人学生を訪日招待

中国の大学から応募して受賞した上位4人の中国人学生には、2018年3月16日(金)に東京で開催予定の「表彰式・発表会」への招請状を送ります。(国際交流基金からの助成金を活用し、国際航空運賃・宿泊費は、主催者が全額を負担します)。

応募数は第1回の合計12本から、第2回合計27本、第3回合計49本、第4回合計51本、第5回62本と回を重ねるごとに増えてきました。第6回はやや減りましたが、それでも日本国内だけでなく、中国国内の多くの大学からも多くの応募がありました。論文のレベルも年々、向上しております。宮本賞はいまや、日中の若者による相互理解を深め、日中のよりよい関係を構築していくうえで、大きな役割を果たしていると言えます。

2018年も第7回宮本賞の募集を6月頃から開始しますので、皆様方のより一層のご協力をよろしくお願いいたします。

第6回宮本賞受賞者

<学部生の部>

●最優秀賞=副賞:10万円

▽浦道雄大さん(横浜国立大学経済学部3年)

「日中経済とシェアリングエコノミー」(シェアリングエコノミーは日本では高齢化による経済停滞の救世主、中国では中所得国の罍を脱するための自主イノベーションになる可能性があるのとらえ、推進のための課題を分析した)

●優秀賞＝副賞：3万円

▽河合紗莉亜さん(日本大学商学部 3年＝代表)、山口掌さん(同3年)、魏英さん(同3年)、有田俊稀さん(同2年)、大平英佑さん(同2年)、影浦秀一さん(同2年)、伴場小百合さん(同2年)、山縣涼香さん(同2年)、山中舜さん(同2年)

「訪日中国人に伊豆の国市の魅力を伝える ～中国人留学生とのパンフレット作製を通じて～」(観光地である静岡県伊豆の国市が中国人旅行者にいまひとつ不人気なのは宣伝方法に問題があると指摘、中国人留学生の協力で新たなパンフレット作製を試みた)

▽山本晟太さん(大阪大学外国語学部 4年)

「フィールドを通じて深まる日中相互理解と協働関係構築への試み ～雲南省でのフィールドワークを例に～」(自身の二度にわたる中国雲南省でのフィールドワークを通じて、現地に対する理解を深め、より深い協働関係を構築する上で、フィールドワークがいかに重要かを知る)

▽王婧滢さん(清華大学人文学部 3年)

「中日国民関係の改善におけるメディアの役割 ー落語『死神』からの発想ー」(日本の落語「死神」の特長として直接的な感情移入と情報提供の時間の短さがあると指摘、日中メディアもこうした相手側の言語習慣の違いを認識すべきだとしている)

▽張嘉琳さん(明治大学経営学部 4年)

「在中日系企業における現場改善活動に関する一考察」(日本的な経営システムである「改善活動」が在中日系企業においても導入され、機能し、効果をもたらしているかを、現地の2社の従業員とのインタビューを通じて追及している)

●特別賞＝副賞：図書券(5000円相当)

▽朱杭珈さん(中国嘉興学院外国語学院 2016年卒。現在 LIXIL 上海勤務)

「三ツ星『日中民間交流活動』作り方探索 ー日中民間交流活動のあり方についての体験談」(日中民間交流にどのような問題点があるかを料理のレシピにみためて分析し、理想的な「三ツ星レシピ」を考案している)

▽長澤成悟さん(日本大学商学部 3年＝代表)、池田真也さん(同4年)、黄鶯さん(同3年)、谷口滉さん(同3年)、金子拓斗さん(同2年)、結城里菜さん(同2年)

「中国・日本のメイカームーブメントから探るモノづくりの新たな一断面 ー衆創空間の深化に着目してー」(インターネットなどの発展により、中国においても深センなどで「衆創空間」と呼ばれるものづくりのプラットフォームが出来つつあり、日本よりもイノベーションを起こす条件が備わっていると結論付けている)

▽陳星竹さん(西安交通大学外国語学部 2017年6月卒業)

「テキストマイニングに基づく日本外交談話の分析 ～外務省記者会見における談話を例として」(外務省会見における談話をテキストマイニングの手法で分析し、外交官の言語に隠された政治や社会的な意味合いを探っている)

▽趙書心さん(上海外国語大学日本文化経済学院 2017年6月卒業)

「太宰治『十二月八日』におけるイロニー」(太宰治の作品である『十二月八日』は戦争讃美か、戦争批判かで評価が分かれているが、戦争賛美のくだりは後で主張を転換するためにみせかけとして存在していると分析している)

<大学院生の部>

●最優秀賞=副賞:10万円

▽該当論文なし

●優秀賞=副賞:3万円

▽白宇さん(南京大学外国語学院博士課程前期2年)、坂井華海さん(九州大学大学院地球社会統合科学府博士課程前期1年)

「日本語を専門とする中国人学生の日本語学習動機と習得状況の関係—蘭州理工大学と南京大学の比較を通して—」(様々な意味で条件が異なる中国の2つの大学、蘭州理工大学と南京大学の日本語学科生にアンケート調査を行い、学習動機と習得状況、将来の希望について比較考察し、相違点と共通点を明らかにした)

▽徐博晨さん(東京大学大学院総合文化研究科博士課程後期4年)

「北朝鮮核問題におけるアメリカの外交戦略と中国と日本の役割——強制外交及び安心供与の視点から」(昨今の北朝鮮核・ミサイル開発危機をめぐる米国の外交政策の展開と行き詰まりを「強制外交」の観点から分析し、「安心供与」の必要性を指摘、日本と中国がそのための役割を果たし、地域の安全保障システムを構築するよう提言した)

▽陶一然さん(立命館大学社会学研究科博士課程前期1年)

「日中戦争初期における中国世論の影響 - 『申報』から見る中国『徹底抗戦』世論の形成と戦争の拡大」(盧溝橋事件に始まる日中戦争初期について、当時中国で最大の部数を誇った新聞『申報』の記事、読者投稿をたどり、和平交渉への不満から徐々に徹底抗戦を唱える世論が強まっていったことを論証した)

●特別賞=副賞:図書券(5000円相当)

▽中島大地さん(一橋大学大学院言語社会研究科博士課程前期2年)

「青年層における日中文化交流の現状と展望 ~小説、映画、アニメ、伝統文化、観光の概観を通して~」(小説からアニメ、伝統文化まで幅広く日中間の文化交流を概観し、特に日本側に中国への親和感と理解が欠けている点を指摘、今後の交流促進に向けて「若者会議の設立」などを具体的に提案した)

▽丹波秀夫さん(復旦大学外国語学院博士課程2年)

「中国の日本語学科生における学習動機の変遷と教師の役割についての考察 ~学習継続プロセスの仮説モデル提起の試み~」(中国の日本語学科生一人を取り上げ、その学習動機の変化をたどるとともに、教師がどう影響を及ぼしているかを明らかにし、果たすことのできる役割について考察した)

▽周渝陽さん(武漢大学外国語学院修士課程3年)

「大正期の総合雑誌における五四運動の捉え方—1919年の『中央公論』と『太陽』を中心に」(1919年に中国で起きた五四運動に対し、『中央公論』『太陽』という日本の二大総合

雑誌が掲載した論説を追い、対中批判だけでなく日本外交批判や両国の相互理解を訴える論も少なからずあったことを明らかに)

▽宋曉煜さん(名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士課程後期満期退学、同研究科博士候補研究員)

「スペンサーの進化論の翻訳と重訳 ～日本語訳『政法哲学』とその二つの中国語訳をめぐって～」(近代中国に大きな影響を及ぼしたスペンサーの著作のうち日本語訳と、そこから中国語に重訳されたものを比較検討し、和製漢語の取り扱いや訳文の特徴から伺える翻訳者の考え方、狙いを明らかに)

<審査委員長>

宮本雄二 元駐中国大使、日中関係学会会長

<審査委員> アルファベット順

(学部生の部)

大久保勲 福山大学名誉教授、日中関係学会顧問

林千野 双日株式会社海外業務部中国デスクリーダー、日中関係学会理事

藤村幸義 拓殖大学名誉教授、日中関係学会副会長

村山義久 時事総合研究所客員研究員、元時事通信社中国総局長、日中関係学会理事

吉田明 前清華大学外国語学部日本語教員、元朝日新聞記者、日中関係学会会員

(大学院生の部)

江原規由 国際貿易投資研究所チーフエコノミスト、日中関係学会監事

加藤青延 NHK 解説委員、日中関係学会副会長

北原基彦 日本経済研究センター主任研究員、日中関係学会理事

高山勇一 元現代文化研究所常務取締役、日中関係学会理事

露口洋介 日本大学経済学部教授、日本銀行初代北京事務所長、日中関係学会評議員

村上太輝夫 朝日新聞論説委員、日中関係学会理事

<宮本賞実行委員会>

委員長 = 藤村幸義

副委員長 = 江越眞、村上太輝夫、川村範行、伊藤正一

委員 = 内田葉子、北原基彦、高山勇一、林千野、三村守、吉田明